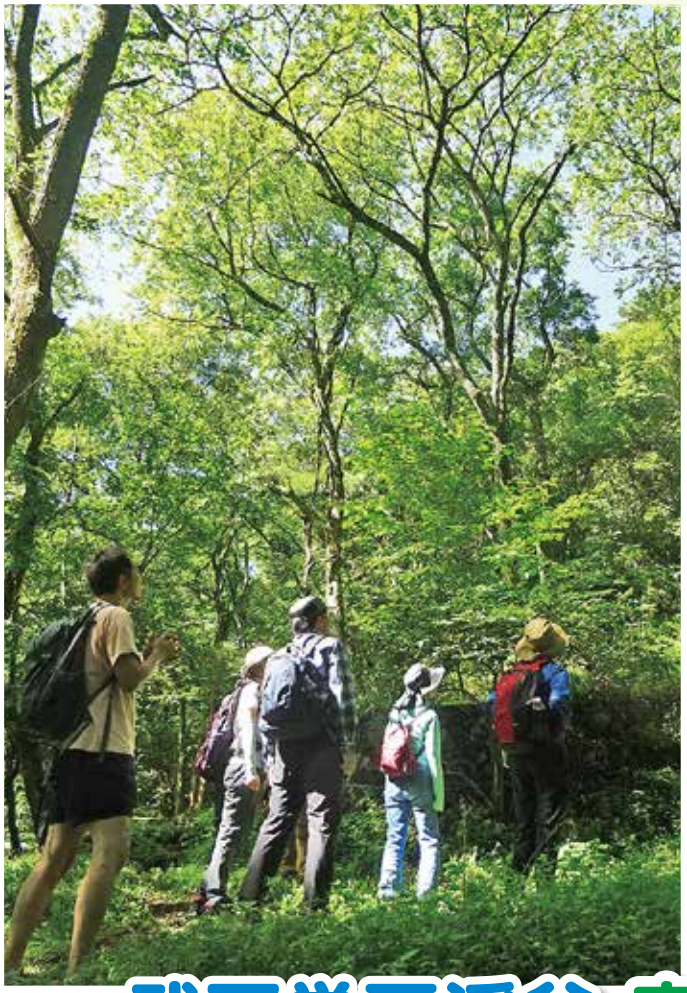
住みよいたけし

住みよい武石をつくる会広報　第51号
2025年10月16日発行
事務所　武石地域総合センター内
TEL:0268-85-2511
https://www.s-takeshi.jp
印　刷　中澤印刷株式会社



武石巣栗渓谷 森林浴トレッキング

9月7日（日）、住みよい武石をつくる会ふれあい交流部会は、武石巣栗渓谷で森林浴トレッキングを開催しました。武石を含む上田市や東御市、小諸市などから14名が参加し、Coもれび代表の上野美知子さん、他3名のねりま森林浴トレーナーを講師に迎え、ふれあい交流部会員がサポーターとして加わり、総勢24名での開催となりました。

まだ夏の暑さが残る巣栗渓谷には武石川からの涼しい風が通り、参加者は遊歩道をゆっくり歩きながら足元の草木の香りや石の上のコケの手触りを体験、林の間から聞こえてくる葉音や川の音、虫やセミの声などに感覚を澄まして自然を楽しみました。林間広場ではシートを敷いて横になり、自然の中に包まれた自身を感じていました。

参加者からは、「川辺で遊べる所があるので今度は子どもと一緒に来たい」、「インストラクターの方から自然の楽しみ方をいろいろ教えていただいて良かった」などの声が寄せられました。

ふれあい交流部会長の依田享敏さんは、「これからも森林浴トレッキングを毎年行いたい。巣栗渓谷以外にも武石で森林浴トレッキングができる場所を開拓したい」と話していました。

お知らせ

第3回　武石地域防災会議　講演会

どなたでも参加できます

「命を守るためにできること」～朝お預かりした命を、夕方しっかりお返しする～

講　師　佐竹　悦子さん（市民団体「ゆりあげかもめ」代表）
日　時　11月16日（日）　13：30～15：30（13：00開場）
場　所　武石地域総合センター　コミュニティホール
参加申込み　不要　入場無料
主　催　武石防災協議会

＊お問い合わせ＊　武石防災協議会事務局　電話0268-85-2824

上田市誕生20周年記念 第9回 仮装大賞

出演者と審査員、製作スタッフの皆さんで記念写真。最前列は長野大学ボランティアチームの皆さん。

9月14日（日）、第9回仮装大賞が武石地域総合センターコミュニティホールで開催されました。

すっかり恒例となった仮装大賞ですが、テレビ局の密着取材や新聞報道、動画サイトの配信などでますます注目が集まり、会場には市内外から約300人の皆さんが来場、地元応援チーム約30人も「頑張れ！地元チーム」、「楽しもう！地元チーム」の横断幕を掲げて地元チームの応援をしました。

出演者は、遠くは宮城県、神奈川県、東京都など県内外から10チームが集まりました。各チームは工夫をこらした手作りの衣装や小道具を使って独創的な仮装や演技を次々と繰り出し、会場には大きな笑いと拍手が沸きあがりました。

久しぶりに参加した武石の子どもたちは長野大学生とチームを組んで出演、のびのびと演技を披露して見事優勝作品に選出されました。

また、今回初めてテレビ番組「欽ちゃん＆香取慎吾の全日本仮装大賞」の司会者でタレントの萩本欽一さんから番組関係者を通してメッセージが寄せられ、総監督の滝澤さんから**「欽ちゃんがやめているときも、仮装大賞を続けていてくれて、ありがとう」**とのメッセージが読み上げられました。

横断幕を掲げる地元応援チームの皆さん

審査員、製作スタッフの皆さんも濃い仮装で出演

出演する人もサポートする人も増えて、レベルが上がってきました。今回は満点が多数出て、いつになく高レベルの競い合いでした。次回に向けてまたがんばります。

総監督　滝澤和広さん（武石郵便局長）

1月から準備をしてきたので、やり終えてホッとしています。今回は地元サポーターの人たちや久しぶりに参加した子どもさんの親御さんなど、多くの方々が見に来てくれました。ちょっと休んでまた来年1月から準備します。　主催 武石風土つなぎ隊（隊長 柳沢裕子さん）

優勝

「大きな武石まつたけ」長野大学リーダーズクラブと武石のこどもたち

3位

「鼓」タニオ君

準優勝

「武石の春夏秋冬」新井家

「華咲か ばあさん」 武石の阿佐ヶ谷姉妹

「巣栗渓谷 お仙ヶ淵伝説」
三井勝彦さん

「テッポウウオのアート」
東京のじいさん＆ばあさん

「To me」＝唐箕（とうみ） 武石郵便局

「武石の今 上田市誕生20周年」
武石地域自治センター

「最近の流行りもの」
寺尾雄二郎さん

「ワイングラス」
佐藤雅美さん

第2回武石地域防災会議の開催

8月3日（日）、武石地域総合センターにて、自治会役員や地域住民、防災アドバイザーや消防団、市職員など約80人が参集して、第2回武石地域防災会議が開催されました。

7月23日に新たな防災組織として設立した「武石防災協議会」の会長松井幸夫さんより、「住民一人ひとりの防災意識の向上が不可欠であり、地域での話し合いを深めることが防災・減災につながると考えます。地域の皆さまには防災活動へのご理解とご協力をお願いしたい」との挨拶がありました。

今回もワークショップ形式で検討を行い、もう一度地域の災害リスクをふまえて、災害の種類ごとの被害、被害の種類ごとの想定個所や範囲、避難について、自助・共助・公助について、など各テーマについて意見を出し合い、必要と思われる取組みや課題をまとめる作業を行いました。

第3回会議は、佐竹悦子さんを講師に「命を守るためにできること」の講演を予定しています。

第44回武石夏祭り開催
夏祭り出店 産業経済・ふれあい交流部会

8月12日（火）、第44回武石夏祭りが開催されました。今回、上田市誕生20周年記念として開催され、武石地域総合センター駐車場・にぎわい広場を会場とするのは6年ぶりとなります。

会場では、春日丘高校のステージ、子供みこし・大人みこし、美ヶ原飛龍太鼓演奏、キッズダンス、信州プロレスの格闘ショーなどが行われ、集まった人たちはアトラクションに見入っていました。また、駐車場・にぎわい広場の周辺には、各種参加団体による出店や夜店・露店が並び、多くの人たちが夏祭りの雰囲気を楽しんでいました。

つくる会産業経済部会は今年も武石夏祭りに出店して、お祭りを盛り上げました。

下本入の畑でつくったジャガイモとトウモロコシを使って焼トウモロコシ180本、じゃがバター250個、小振りのジャガイモを使った甘辛煮の販売を行いました。何れも評判が良く、たくさんの人たちがお店を訪れて、お祭りの中ごろには完売となりました。

形や大きさには少々難ありでしたが味は好評だったようで、「今年も完売できてよかった」と部会長の橋詰真由美さんは話していました。

第33回 たけし歴史さんぽ道

真田家重臣原昌貞と武石 Ⅱ

郷土史家 児玉卓文

上田時代の真田氏重臣は、給付された知行地の主要な村に自分の菩提寺を設ける場合が多く見られます。原浄貞は武石に隠居するに際して、正念寺を菩提寺とすることを意図し、寺側も真田氏の重臣を迎えるに当たって、領主信之に寺領の安堵をお願いしたのではないでしょうか。

原浄貞は、武石に隠居領を給付された月の26日に武石で死去したと伝えられているので、原夫妻の武石居住はほんの束の間でした。

とすれば、隠居領に新居が建つまで、原夫妻は菩提寺と定めた正念寺の一角に住んだことも考えられます。そして彼の守り本尊(大英寺阿弥陀像)も、新居に持仏堂ができるまで、正念寺に客仏として迎えられた可能性があります。

平成27年2月、正念寺の奥寺住職は本堂の掃除の際、本尊裏の納戸の中に、嘉永2年(1849)の「当山代々什物覚控」に記されながら所在不明であった真田信之の位牌を見つけました。正念寺には今まで知られていなかった、慶長6年(1601)8月付の野竹氏あて三十貫文を給付する信之の判物(花押がある書状で、朱印状より大事な書類)があるので、三十貫文は武石の地で与えられ、位牌は野竹氏が収めたものかも知れません。

松代大英寺阿弥陀立像
(浄貞の守り本尊)

原氏・信之公・野竹氏と正念寺の関りは何も伝わっていませんが、当時は何らかの関係があったものと想像されます。

原浄貞が光背と台座を造立した阿弥陀如来立像2体、すなわち諏訪部の芳泉寺像と松代の大英寺像は、原が亡くなった元和2年10月以降は双方とも諏訪部の常福寺に安置されたと思われます。

元和6年(1620)2月24日、真田信之の正妻小松姫が亡くなりました。戒名は「大蓮院殿英誉皓月大禅尼」。翌年1周忌を期して宝篋印塔形式の墓塔が常福寺に建てられました。現在の芳泉寺小松姫墓所です。

続いて、信之は亡妻の菩提寺として常福寺の名称を改めた「大蓮院殿の寺」を、遠く和泉国(大阪府)堺から大工の棟梁を招き、地方には稀な大伽藍の寺として建築し始めます。

小県郡一円の支配者となった信之は、亡妻の三回忌を期して、元和8年(1622)2月28日、「上田郷に万徳の尊容を備える」(創建に合わせて鋳造した鐘銘の一節)「皓月山大英寺」(大蓮院の「大」と英誉皓月の「英」とで大英寺)の落慶法要を行いました。

しかし、この年の10月、真田氏は上田から松代へ移り、上田には小諸から仙石氏が入るという幕府命令が発せられました。

信之は大英寺はもちろん、ほかの真田氏関係の寺社を小県から松代に移しました。移すと言っても建物そのものを移築するわけではありません。松代に在った旧来からの寺の名を変えたり、全く新たに建造したりするのです。松代の大英寺は、松代から庄内鶴岡(山形県)に移った前主酒井氏の菩提寺大督寺を改めたもので、小松姫の墓は上田に残されましたが御霊屋は松代の大英寺に移築され、原浄貞が光背・台座を造立した2体の阿弥陀如来立像の内、一時武石にあったかもしれない浄貞の守り本尊は松代に移され、もう一体は上田の大英寺に残されました。

仙石氏は、真田氏奥方の戒名に因む寺号を嫌い、一旦寺号を常福寺に戻した後、元和9年春、小諸の菩提寺宝泉寺から初代秀久の墓を常福寺に改葬し、芳泉寺と改め菩提寺としました。

芳泉寺境内と小松姫墓所

武石で働く事業所の紹介

武石の企業訪問

株式会社 樋沢産業

代表取締役 会長　樋沢 一幸さん

下武石の中の橋のたもとに、株式会社樋沢産業の事務所と製材工場があります。

会社事業の柱は建築請負業務と木材加工・販売の二つで、売上比率は建築請負業務が約75%、木材加工・販売が約25%とのことです。

請負業務の内容は、木材を原料とした加工や組み立て、取付けなどを行う木工事全般で、お客さんは大手建設会社（北野建設、守谷商会、北澤土建、他）が主とのことです。身近な施工例では、武石小学校の大改修や依田窪南部中学校の体育館の木工事を担当、長和町庁舎や上田市新庁舎、サントミューゼ、武石地域総合センターでも木工事の一部を施工しています。公共施設やホテル・旅館、学校関係など、大規模な木工事の仕事が多いそうです。また、木材加工・販売の取引先は近隣の工務店が主とのことです。

軽井沢中学校の施工例

現在の従業員数は10名で、工事現場で大工さんの管理や行程進捗管理などを行う現場代理人２名、営業１名、木材加工・配達作業員5名、事務2名です。この他に、工事現場では約20人の大工さんを雇って請負業務を行っています。

1969年（昭和44）に先々代社長が有限会社樋沢産業を設立、1979年（昭和54）に先代社長に、1992年（平成4）には現会長に代表者が代わり、1997年（平成９）には社名を株式会社樋沢産業に変更しました。

設立当初は、山から切り出した丸太を製材して板を作り、その板を使って電線を巻くドラムを主に製作していましたが、昭和50年代には他社との競合やコストダウン要求などから、電線ドラム事業の業績が悪化しました。そこで、より付加価値の高い建築用木材の加工･販売へと事業の転換を図りました。

やがて家の新築ブームや別荘地の分譲などで住宅建築の需要が高まり、建築用木材はとてもよく売れて、全盛期には80～90軒のお得意さんに木材を納入していたそうです。

ただ、「こんな良い状況は続くはずない」と常に不安を抱えていた現会長は、1993年（平成５）から木工事の請負業務を始めました。会社として全くゼロからの事業でしたが、大工さんや色々な人たちに教えてもらいながら、木工事に必要な設計技術や施工技術を習得して技を磨き、様々な現場で実績と経験を積み重ねて、請負業務を会社の主事業へと転換を図りました。

製材工場

「木は生き物なので、工業製品のようには扱えません。丸いもの（丸太）から四角いものに製材することは難しいが、その反面奥深さもあります。また、木はどうやっても曲がるが、それをどうやってうまく使うか考えて使うのが我々の仕事です。木の取り方や特性は我々がよく知っています。木材のプロフェショナル企業として高い技術と知識を持つのが樋沢産業です」と樋沢会長は話していました。

会社で最も大切にしていることは、「木も人も共に歩み育てていくこと」で、「一人ひとりのスキルを高め、社員のそれぞれの個性を生かせる環境を作っていきたい。若手社員の育成にも注力していきたい」としています。「当社の業務に興味関心がある方はホームページをご覧いただき、ぜひ一度ご連絡ください」とのことです。

株式会社 樋沢産業

住所：上田市下武石577－1

電話：0268-85-2038

（会社ホームページ）